

第三者意見

綜研化学グループ「2014 社会・環境報告書」を読んで



公益社団法人 化学工学会
産学官連携センター SCE-Net
長安 敏夫

化学会社に33年間勤務し、プロセス開発、管理・改善などに努めた。その後ISOコンサルタント会社にて3年間勤務した後、個人業として企業の環境マネジメント支援を継続中。

アジアの生産拠点紹介の意気込み

2014年版はトップメッセージ、グループの拠点紹介に続く記事が例年と違って4頁に亘るアジア生産拠点の記事であることに新鮮味を感じます。アジアの6拠点の代表として綜研化学（蘇州）が紹介され、「日本的な企業文化の創出」、「蘇州工業園区の模範工場」として地域安全への貢献、「緑豊かな化学工場」づくり、惠民富民キャンペーンへの協力を通じての社会貢献などの記述から、単に生産業務を行うだけでなく、周辺社会への環境貢献の意欲が伺えます。今後の社会・環境報告書においてアジア拠点で働く日本人或いは現地の人による社会環境改革のリーダー的な貢献の成果が伝えられることを期待いたします。

従業員への思いやり、地域社会への思い入れ

「従業員の心と身体の健康を支える体制作り」「仕事と家庭生活の充実を支援する制度」に書かれた具体的な実施内容（写真も含めて）は、他社にとっても大いに参考になる見本と言えるものです。

地域貢献活動も綜研化学グループの大きい特徴です。今回の報告期間に実施されなかった近隣小学校での出前理科教室も今後は是非継続され、昨年の第三者意見に記述された、「教える側と教えられる側双方のレベルアップ効果」がより具体的になることを期待します。インターンシップ生の受け入れはインターンシップ生自身にとって貴重な経験となり素晴らしいことです。今後は更にフォローアップ（例えばインターンシップ生から終了後も意見を寄せてもらうなど）を通じて綜研化学グループにとっても役立つものにされては如何でしょうか。

環境中期計画と環境マネジメントについて

環境中期計画では複数の事業所をまとめて統一した目標がうまく設定されています。地球温暖化防止のために各製品分野に設定した「環境効率向上」は着実に目標が達成され、「化学物質による汚染防止及び環境リスクの低減」も計画した実施項目を着実に実現しておられます。これらは各サイトの実施例が示され、実行度が実感できます。各実施事項の目標達成への寄与度を定量的に評価されるとより確実にPDCA（計画・実行・チェック・改善）サイクルを回すことができます。一方で環境配慮型製品売上高比率向上の推進と非生産部門のCO₂排出量抑制は連続未達成です。目標未達成項目については、PDCAサイクルを着実に回すために、改善手段の一層の工夫に加えて、努力してできることとその効果を見極めて、全員で協力でき且つやりがいのある目標設定に向けての見直しをお勧めいたします。

環境苦情、環境不適合について、事実に対して真摯に向き合われていることは他社への模範ともいえる事です。対策を実施してその効果も確認するというPDCAによる継続的改善の取り組みが強化されたと評価いたします。

報告書全体を通じて

毎年掲載されています製品或いは生産技術の紹介が今年度は見られないのは少し寂しい気もしますが、次回を楽しみにします。環境配慮型製品のページで紹介された「ナノインプリント」は応用範囲も広く今後が楽しみです。綜研化学グループの得意製品として伸びていくことと今後も新たな環境配慮型製品を生み出されることを期待いたします。

報告書全体を通じて、製品を通しての社会貢献、環境改善、株主への貢献、地域貢献、従業員の幸せを十分に配慮された会社であることが伺えます。

綜研化学のHPを是非ご覧下さい。

当社のHPにて、「社会・環境報告書」のバックナンバーをご覧ください。

また、コーポレート・ガバナンスにおける当社の取組みもHPにて詳細を確認いただけます。

<http://www.soken-ce.co.jp/>

2014年11月
リニューアル予定

